

「本学の災害時の対応について」が開催されました

実施報告

日時: 2011年 6月6日(月) 11:30 ~ 12:00

場所: 東海大学湘南キャンパス
8号館3階プロジェクト会議室

司会: 崔 一英(チャレンジセンター教授)

内容:

1. 東日本大震災発生当日の状況と対応
林 敦史氏(湘南総務課係長)
2. 防災用品の備蓄状況
林 敦史氏(湘南総務課係長)
3. 今後の対応
林 敦史氏(湘南総務課係長)
4. 質疑応答

東日本大震災発生当日の状況と対応

3月11日午後2時46分の震災発生当時は、春休み中だった。キャンパスに大きな被害はなかった。発生直後に防災計画書に準じて、1号館の鉄塔に設置されているスピーカーを使って「帰宅できる方は帰宅してください」と緊急放送した。

ところが、午後4時ごろになって、小田急の運転見合わせの情報が入ったため帰宅できない人たちは1号館(1階売店の場所)に避難してもらった。(屋外が安全だが、当時は3月上旬で寒かったため、屋内の安全な場所を指定した)。

午後7時ごろ、学食で夕食を提供したところ、約100人が利用した。その後、宿泊のため14号館に移動してもらい毛布を配布した。14号館講師室に本部を設置した。

12日午前零時15分、小田急が運転再開。帰宅希望者のため、駅まで大学バスを2往復運行した。その後、ファシリティ課が建物の安全確認。全学で安否確認を実施した。

林 敦史氏(湘南総務課係長)



防災用品の備蓄状況

総合グラウンドと野球場の間に備蓄倉庫がある。平日の学内人員、学生 15000～18000人、教職員 1200人、関連会社等 300人の計約2万人を想定、クッキーなどの非常食セット、ブランケット、水などを3日分備蓄している。

林 敦史氏(湘南総務課係長)



今後の対応

避難経路図を各教室に掲示するが、実際にはマニュアル通りに行かないことも考えられ、臨機応変の対応が必要になる。地震被害だけなのか火災が発生したのかによっても避難路を変える必要がある。

1号館からの緊急放送が届かないところもあるので、今後対応を考えている。

林 敦史氏(湘南総務課係長)



質疑応答

Q. 想定と違った場合の指示はあるのか。

A. 授業中の場合は、総合グラウンドに避難することになるが、結局、その場で判断していただくことになる。